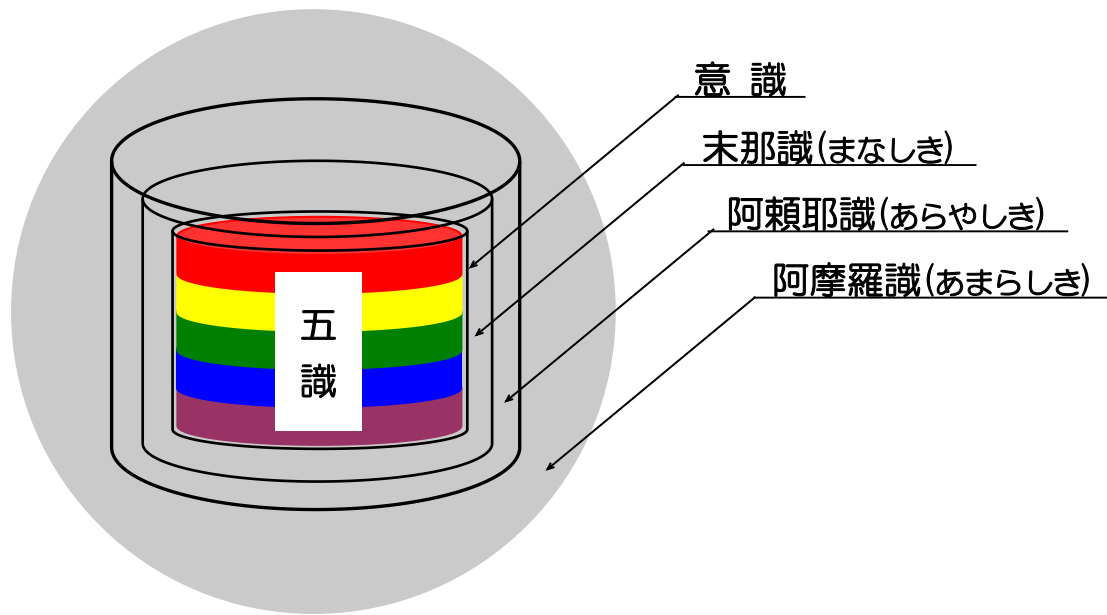


★ 九識…物事を識別する9段階の心の作用 ★



◎六識(五識+意識)…五識(眼識・耳識・鼻識・舌識・身識)は、上図のように五識がはっきり分かれているのではなく、白色の日光がプリズムを通して7色の虹ができるように、ある刺激(対象)を5つの感覚器官(眼・耳・鼻・舌・皮膚)が感じとって初めて意識(視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚)がおこる。

これを仏法用語で説明すると、縁が生命に感応することで五識が差別され、六識が作用する。

◎末那識(七段階目の心の作用)…我慢偏執の心。思考・感情そのものを思い量ることから、思量識とも云う。⇒六識+末那識=七識

◎阿頼耶識(八段階目の心の作用)…無意識の心。一切法を含蔵することから、含蔵識とも云う。⇒七識+阿頼耶識=八識

◎阿摩羅識(九段階目の心の作用)…根本浄識，自性清浄心または，本覚，仏識。上図では，仏の生命を表すものとして，輪郭のない球形で表現。⇒八識+阿摩羅識=九識

(主席理事・伏竜)